
平穩な生き方

ホワイトナイト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平穏な生き方

【Nコード】

N5860D

【作者名】

ホワイトナイト

【あらすじ】

幸せというのは心の持ち方で得ることが出来る。そう信じる少年の、ちよつと歪んだ小話。

平穏が好きな僕は平原の草のようだと思う。

穏やかな風にも激しい風にも、誰かの足に踏まれても恵みの雨に打たれても、抵抗することなくそれを受け入れ、しなり、形を変える。僕はしょっちゅう欲がないと言われるが、その意見には賛成できないと常々思っている。

だって最も大きい野望とも言える「幸せに生きる」ということを欲しているのだから。

普通の人間のように物を得て、つまり水、食べ物、おもちゃを得て幸せを欲するのではなく、自分にとって不快なものを「得ないこと」を欲している。得たいものより得たくないものの方が数が多いに決まっているのだから、その点で僕は欲張りと言えるのだ。

勿論、得たくても得られないものがあるように、得たくなくても得てしまうものはある。

にわか雨を例に挙げると分かりやすいかもしれない。将来的には違ってくるかもしれないが、今のところ天候を操ることは出来ない。にわか雨はその時点で屋外に出て人間は享受する、というよりしてしまふことになるが、大多数の人間は欲さない。

僕の体験も外見的には違って見えても、本質的なところでは変わらない。

数ヶ月、いや数年前の出来事か、僕は学校で死体をみてしまった。人間の。

それは屋上の中央で大の字に横たわっていた。女子だった。何かバットのようなもので殴られたみたいで、血が辺りを染めていた。

誰とも顔を合わせる必要のない屋上で弁当を食べようと思っていた僕は、いわゆる第一発見者になったのだった。

倒れている人影がもう死んでいることを確かめると、さすがの僕もすぐに行動を起こすことは出来ず、少しの間考えをめぐらせた。

そして・・・何事も無かったかのように、ごくごく自然に死体に背を向けると、誰も見ていないことを確かめた後、階段を降りて教室に戻ったのだった。

なぜ人に知らせなかったのか、常識のある一般人ならきつとそういうだろう。でも僕は言いたい。なぜそんなことをする必要がある？他人に迷惑をかけない範囲で僕は自由に行動しているのだ。責められる覚えは無い。

それでも一応、常人だと僕の本能に従った何も不自然ではない行動でも、きつと理解できないだろうから、誰にも気取られないように注意を払った。

結局見つかったのは、いや僕以外の人間が見つけたのはその翌日だった。

それからしばらくの間はマスコミやなにやらで極めて不快で騒々しい毎日を送ることとなってしまったが、やがて忘れられていった。

誰も僕が真の第一発見者だなんて知らずに。

死体を見てもショックを受けず、ペン回しの最中にペンを落としてしまった程度に認識し、僕は今も平穏に生きている。外部の刺激にも翻弄されずに、草のようにしなやかに、生きている。

僕はきつと、死ぬ最後の瞬間まで穏やかな顔でいるだろう。僕の平穏を奪える出来事なんて、何も無いのだから。

（後書き）

なんというか、衝動的に書いていましたね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5860d/>

平穏な生き方

2011年1月27日02時37分発行